

第69回 東葛しぜん研修会

阿武隈川源流を散策

岩根悦子（船橋市）

日 時：7月31日（木）、7時30分に松戸発～18時20分帰着

場 所：白河の甲子高原（福島県西郷村 阿武隈川源流）

案内人：藤田和孝氏、参加者：27名+藤田さんご夫妻

1999年設立の東葛しぜん観察会は、3月に100回を迎えました。記念につくったトンボとクズの葉痕の2種類の缶バッジは、いま会員のリュックなどに見かけられます。「心に残る記念行事」との視点もあり、福島県西郷村・甲子高原阿武隈川源流の散策はその思いが形になった研修会でした。案内の藤田和孝さんは、かつて東葛しぜん観察会の会員でいらっしゃり、現在は西郷村在住で森林インストラクターとしても活躍。今回のコースはインストラクター会でもリピートで行われたほどの人気のコース。そんな特別のコースが前代表の渋谷孝子さん（森林インストラクター）、三嶋事務局長の多大な尽力により実施に至りました。

先着27名の参加者が決まるや、渋谷さんから新甲子遊歩観察会で出会えそうな木本・草本の植物をはじめ、20数ページの資料がメールで届き、雨天の場合の温泉セットの用意など変更路線まで考えられた、きめ細かなワクワクの中身で、当日が待たれました。

好天に恵まれ、時間どおり西郷村に到着すると、藤田さんはご夫妻で私たちを迎えてくださり、すぐに遊歩道に…。浅緑色の木々が目にやさしく森はほてった体にひんやり！見上げるとミズナラらしき葉がさやさや。足もとの植物に目を奪われていると、あちこちから興奮気味に様々な植物の名が聞こえましたが、葉っぱだけでの判定は難しそうでした。クサアジサイ、コアジサイ、ヤマジノホトトギス、キツネノボタン、ヌスピトハギなど見られた花は数種、レンゲショウマは一輪のみ、タマアジサイは大きな蕾があちこちに。驚いたのはトチバニンジンの赤に黒がツートンカラーで入る実、Mさんがソウシショウニンジンと教えて下さいました。タマゴタケも見ました！

フサザクラの葉が真上で涼しげな水辺での昼食休憩は短い時間でしたが、生きものに目を輝かせて水辺近くへ降りたり、カメラにおさめたりとさまざまに愉しむ姿が見られました。案内の藤田さんは気ままな遠客の意思を大いに尊重してください、予定のコースはだいぶ短縮になりましたが、午後は昔から信仰の対象として親しまれ「剣桂」と呼ばれる胸高幹周り9.7m、樹高45m、推定樹齢370年のカツラの巨樹を訪ね、その後蝶の羽根のごとき花穂がぶら下がるサワグルミもご案内いただきました。

往復のバスの車中は事務局の小島さんが樹木・草花、鈴木さんがトンボなど生きものと、それぞれ得意分野でのクイズを出題し、成績優秀の正解者には手描きの植物画の絵はがきや、松戸の21世紀の森と広場の水辺で見られたコシアキトンボ、ウチワヤンマ、ショウジョウトンボ、オオシオカラトンボがヨシに一列に並ぶA4の見事なカラー写真など、垂涎の賞品が付きました。

約12時間の充実のバスの旅は、前後にふなばし三番瀬と松戸21世紀の森と広場の東葛しぜん観察会に挟まれての研修会でしたが、一緒に汗を流す仲間との思い出に残る12時間でした。



阿武隈川の源流で昼食休憩